

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001500		
法人名	(有)ネクストサプライ		
事業所名	グループホーム名古屋中川の家 1号館		
所在地	愛知県名古屋市中川区吉津4丁目1303		
自己評価作成日	平成26年2月25日	評価結果市町村受理日	平成26年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成26年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの状況に応じた介護・自立支援を、職員・家族で話し合い実行するようにしている。
 毎月行う行事には、家族にもお知らせし参加して頂き、一緒に楽しんで頂くようにしている。
 地域の住民との交流も大切にし、運営推進会議や行事への参加・協力を働きかけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年度、目標達成計画に掲げた取り組みの「地域との交流を深める」は、地域住民参加で避難訓練や利用者とかつまいも作りが実践することができた。また、地域の秋祭りなど地域行事に積極的参加したり、ホームで認知症サポーター養成講座を開催して地域の人に参加して貰うなど、地域との交流が密になってきている。家族も協力的で外出行事など行事参加が増えており、良好の関係がうかがえる。職員は利用者とは日頃の会話や発語体操を継続して行うことで、利用者が言葉を発することが増えて、思いや要望を伝えて貰えるようになり、利用者本位のケアに努めている。毎月の職員会議では業務以外にもさまざまな福祉に関する議題について学ぶ機会を多く持ち、サービスの質の向上を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を提示して有り、職員会議で唱和し、確認をし実践に繋げている。	玄関前に理念が「人格を尊重し、常にその人の立場にたち明るく家庭的な雰囲気を心がける」と掲げられている。職員一人ひとりが常日頃から意識し、実践しようと努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、町内の神社に初詣にでかけ、地域の方々と交流を図っている。 近所の喫茶店に出かけたり、地域の高齢者の方々と一緒に食事をする「つくしの会」の給食サービスに参加している。	事業所の行事案内を近隣にポスティングしており、昨年は認知症サポーター養成講座を開催し、地域住民の参加があったり、秋祭りには子供会による獅子舞の訪問や、クリスマス会には近隣の保育園児との交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校より中学生の体験学習を受け入れている。 運営推進会議や行事への参加を地域に呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で伺った意見は、職員会議・カンファレンスにおいて話し合い、サービス向上に活かすよう心掛けている。	運営推進会議で利用者家族から、消防士による消化器を使っでの消火訓練の実施提案があり、会議の中で避難訓練を実施することができ、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域支援センターの職員に出席して頂いている。 利用者の状態に応じ、市職員から利用者へ直接話をして頂く機会を設けている。	生活保護課担当者の訪問があり利用者が直接、生活上の相談ができる場を設けている。 また、事業所の空き状況などについて、市役所から問い合わせがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所に「身体拘束ゼロへの手引き」を置き、職員への啓発を行なっている。	事業所内の勉強会で取り上げ、職員の意識付けを行なっている。特に言葉使いには注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の指導は徹底されており、事業所内での研修で学ぶ機会が作られている。 職員同士でも、注意し合う事が出来るよう指導されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者の後見人との交流は持っている。 講習会やセミナー等に職員が行ける環境にあり、進んで参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用者、家族等に契約内容を理解・納得して頂けるよう説明をしている。またリスクについても同様に説明し理解・納得して頂けるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に対する苦情や要望のなどの窓口は施設だけでなく、本部にも設けられており、家族よりの意見・要望を聞き、運営に反映させている。	家族とは訪問時や電話で話しをする際に意見を聞いており、検討が必要な場合は、職員間で話し合いが行なわれ、家族に必ず返事を返している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議は本部の地区責任者同席で、毎月行われ、職員が意見を述べる機会を設けている。 議事録は回覧し、全職員に周知を図っている。	職員会議以外にも日頃から話し合う機会が多く、その都度、職員間で情報を共有し、意見交換を行なっている。職員は管理者に対して意見が言いやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の変更で給与・福利厚生等条件の整備がされている。職員は変更された内容をいつでも見る事が出来、今後の向上心に繋げる事が出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内における研修は毎月、全職員に対して行われている。 外部研修については、回覧にて職員に情報を提供し、希望者には参加出来るよう勤務調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講演会・シンポジウム等への参加を出来るだけするようにし、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に対する傾聴に十分留意するようにしている。利用者全員に対し、希望に応じて、一緒に外出したりする時間を持つよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の要望については、可能な限り受け入れるよう努力しており、利用者の状況についても、詳細に家族に報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時だけでなく、本人の状況の変化に伴い、担当者会議で話し合い、家族にほうこくしプランの変更をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食器拭き・洗濯物たたみ・裁縫等、利用者の能力に応じて、職員と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事に利用者と共に参加して頂けるように、その都度案内をしている。家族の方と外出・外泊を自由にして頂いたり、通院に付き添って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人の来訪や家族との外出の機会を設けている。また、希望に応じ電話での会話・交流もされている。	職員は利用者が友人に電話をかけた時、年賀状を出す手助けをしている。入居後に近隣の床屋や喫茶店が、馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月行う行事等に向け、利用者と一緒に考え、準備や作品作りをしている。天気の良い日には、一緒に話をしながら、散歩に行ったり日光浴をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される利用者の受け入れ施設の確保や情報提供を行なっている。 家族の許可を得て面会に伺ったり、家族から退所者の状況について電話を頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人に意向を聞き、希望を取り入れる様にしている。 利用者の行動の変化等を観察し、状況を介護記録に記し、ケアプランに反映させている。	日常の関わりの中から、思いや希望を把握する様にしている。発語体操の実施や声掛けを頻回に行うことにより、言葉や歌を歌う事が増え、思いを把握できる様になった利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている居る	家族関係や生活歴・病歴等については、入居情報として記録し、日々の会話の中からもくみ取りケアプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の出来事や言動等を介護記録に個別に記録し、職員間の情報の共有、ケアプランの見直しに活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の担当者会議で話し合い、本人の状況について、家族や協力医等と意見交換や指導を頂き、ケアプランを作成している。	モニタリングは3か月に1度行い、要望や変化があった時にはその都度見直しをしている。目標を達成できる様に主治医から意見をもらったり、職員で話し合いプランを作成している。今後は家族を交えたカンファレンスを開いて行く予定である。	利用者の生活の在り方について、家族の意見も反映できる様に取り組んでいく事に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の出来事や言動等を介護記録に個別に記録し、職員間の情報の共有、ケアプランの見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリや訪問理美容など、他サービス事業所とも連携し、本人のニーズに合ったサービス提供をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の高齢者の方々と一緒に食事をする「つくしの会」の給食サービスにさんかしている。 図書館に定期的に出掛け利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問医、訪問歯科の受診を受けている。	かかりつけ医への受診は家族との連携を図りながら行っている。協力医は2週間に1度、歯科は毎週受診があり、受診後は医師から直接家族へ電話報告を行う時もある。また認知症専門医の往診も月に1度あり利用者の変化に対応ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回、利用者の健康管理をしている。 利用者に急変などが有った時は相談し、アドバイスを受けている。 訪問医・訪問歯科医から、介護として可能な支援の指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が付き添い、情報提供をしている。入院中は、定期的に病院を訪れ退院についての情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンス等において、利用者の状況を協議し、必要に応じて医療機関や特養・老健との連携を図っている。	対応については入所時と必要時家族と話し合いを行う事としている。以前、協力医との連携で看取りを行った事があり、事業所の出来る最善策を本人や家族の思いを大切にされた支援で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを整備し、職員への周知徹底を図っている。 一部の職員ではあるが、救急救命の普通講習・上級講習を定期的を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の消防訓練の実施を行い、昼・夜分けての避難訓練を行っている。 新しく入った職員には、消火器の使い方・通報装置の使い方の指導をしている。	避難訓練は年2回実施している。地域住民が参加できるように実施日の確認を取り合い参加してもらった事ができた、夜間想定での訓練後は改善点も見つかり、今年度は消防署参加の訓練を予定している。	全職員が訓練に参加できて、避難経路や通報訓練など、スムーズに動けるように、自主訓練を検討されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傾聴、声掛けに努め、利用者の生活に配慮するよう努めている。	利用者の人格を尊重して、プライバシーに配慮した対応を心がけており、職員の声掛けの仕方など管理者は常に注意を払っており、言葉遣いは丁寧である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩・入浴・着替え等、本人のその日の希望や、気分により自身で決めて頂くよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、利用者のペースで生活出来るよう、それぞれの声に耳を傾け支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度、髭剃りなどの声かけや介助を行ない、身だしなみを整えその人らしいオシャレが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、利用者の希望を献立に取り入れている。 食事の準備や片づけなど、無理のない範囲で参加して頂いている。	食事の献立は利用者の意見を聞き考えている。時には献立を変更したり、お弁当を作って外で食べたりして楽しんでいる。事業所敷地の一角に畑があり、季節の野菜を栽培し食卓に並ぶ事もある。冬には芋堀りをして焼き芋を食べる事が楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外の水分補給は10時・3時以外にも状況に応じて行なっている。 毎月の体重測定や定期的な血液検査を行い、医師の指導、指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の定期的な受診を受け、適切な指導を受け、個々に応じた口腔ケアの実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を行う事で失敗を減らし、排泄の自立に向けた支援をしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、声掛けや誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事により、自然な排便を心がけると共に、毎日のリハビリ体操・散歩などで、身体を動かし便秘にならないよう気を付けて居る。 便秘が続くときは、主治医の指示により便秘薬の服用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の気分・体調により、入る・入らないを利用者自身に決めて頂いている。 入浴が楽しみな方も多く、毎日入られる方もいる。	入浴を楽しんでもらえる様に、ゆず湯など季節の風呂を、アイデアを出し楽しんでもらっている。毎日入浴は可能であるが、利用者の意見から最近では入浴時間を長くとり十分温まってもらう様に支援している。また、入浴拒否が続いた時には、利用者への関わりの仕方を変えながら対応を行う様にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室で休息して頂ける状態にあり、一人ひとりの状態に応じ、休息が必要な方には夜間の安眠を妨げない程度に声掛け、休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬の説明書を把握し、薬の変更が有った場合は、経過観察をし主治医への報告を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片づけ・洗濯物たたみ・掃除等、利用者の能力に応じて行なっている。 近所の喫茶店やスーパーなどに出かけ、気分転換の機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良ければ、毎日散歩や日光浴をしている。 一人ひとりに希望を伺い、散歩・買い物・図書館などに出かけている。 地域の喫茶店等に行くときは、事前に連絡を取りお店の方に協力をお願いしている。	喫茶店や図書館に出かけたり、少しの間でも気晴らしができる様に、近隣の公園や神社へ出かけることもある。また利用者の行きたい所を立案して、全員が外出できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお小遣いを預かっており、一緒に買い物に出かけ、預かっている財布から自分で支払をして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族にあてた年賀状等を書いたり、知人に宛てた手紙を書かれる利用者もいる。家族の方への電話の取次ぎは職員が行い、直接お話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、毎日清掃を行い、常に清潔に努め、転倒などの事故につながる物が無いよう整頓に努めている。 壁には、利用者と一緒に作った季節の飾りなどを掲示している。	リビングは天井が高く広い空間作りとなっていて、室温は適切で、ソファーに座りゆっくりテレビを見たり、時には家族と一緒に座り会話をしている利用者もいて、のんびり過ごせる様に配慮している。また利用者同士で話し合い、席の配置をするなど共有場所は楽しく居心地良くなっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、本人のADL、他者との人間関係を考慮し食事時の席を決めている。 リビングに置かれているソファーに座り、テレビを見たり、仲の良い利用者同士が話ができる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの好みを尊重し、居室には馴染みの物や使い慣れた家具などを置いて頂き、居心地の良い空間づくりをしている。	利用者が心地よく過ごせる様に、使い慣れた物を持ち込んで貰っている。一人ひとりの好みを尊重した部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設は、平屋建ての段差が無いバリアフリー構造になっており、車椅子利用者や杖の必要な利用者をはじめ誰もが自由に行動できる空間づくりをしている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371001500
事業所名	グループホーム名古屋中川の家

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2)	評価
	クリスマスには保育園児との交流を図ったり、秋祭りには子ども会による獅子舞の訪問が恒例になっている。また、事業所が主催した認知症サポート養成講座には地域住民の参加があり、今後も地域交流を図る機会を増やしていきたいと考えている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目: 3)	評価
	6回目の会議では避難訓練実施後に意見交換が行なわれた。反省点については職員会議でさらに話し合い、次回の訓練時に生かせるよう取組みが行なわれている。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目: 4)	評価
	事業所の空き状況などについて市町村から問い合わせがある。生活保護課、権利擁護担当者の訪問があり、利用者が直接、生活上の相談ができる場を設けている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6)	評価
	年に2回「中川だより」を発行している。行事などのお知らせは家族に郵送し、利用者の様子がわかるように、写真を添えることもある。遠方で訪問が難しい家族には電話をかけるなどして意見を聞くようにしている。法人本部にも相談窓口が設けられていることを家族に伝えている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○	×	○	○	

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
	(例示)
3. 運営推進会議を活かした取組み	① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
	(例示)
4. 市町村との連携	① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
	(例示)
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。